

**文化財保存新潟県協議会・第12回大会****よみがえる中近世佐渡金銀山と鉱山町****～世界遺産にむけての考古学的調査から～**

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会のこれまでの活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。今回は、世界遺産登録をめざしている佐渡金銀山を取り上げます。政府は、去る10月6日、世界遺産条約関係省庁連絡会議を開き、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」（新潟県）と「百舌鳥（もず）・古市古墳群」（大阪府）を、世界遺産暫定一覧表に追加することを決めました。近く国連教育科学文化機関（ユネスコ）に、この2件を追加した計14件の暫定一覧表を提出し、世界遺産を認定するユネスコの世界遺産委員会の審査を受ける準備に入ることになります。そこで、文新協では最近の世界遺産登録にむけた考古学的調査から明らかになった佐渡の魅力を再確認したいと、標記のテーマを掲げて大会を開催することとしました。お話しは、佐渡市世界遺産推進室の宇佐美亮さんから最近の発掘調査成果を、そして本会副会長の橋本博文さんからは佐渡の考古学的魅力を、それぞれ存分に語っていただきます。

なお、大会終了後は懇親会を開催いたします。お気軽にご参加下さい。

大会・懇親会への参加は、会員に限りません。歴史や遺跡に興味をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。

**と き：2010年11月21日（日）**

**ところ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室**

（新潟市中央区柳島町2-10 TEL：025-225-6111）

**日 程：総 会 13：00～13：30**

**大 会 13：30 一般受付開始**

**14：00開会～16：30（終了予定）**

講演「中近世の佐渡金銀山－近年の考古学的調査から－」

**宇佐美 亮** さん（佐渡市世界遺産推進室）

報告「佐渡の考古学的魅力と世界遺産登録への期待」

**橋本 博文** さん（本会副会長・新潟大学人文学部教授）

**懇親会 17：00～**（会場は当日ご案内します。会費4000円程度。）

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## 学問への姿勢を熱く語った寺村講演

# 「新潟の玉作研究最前線！」を開催



去る2009年10月24日（土）、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）において、本会の第11回総・大会を開催しました。大会テーマは「新潟の玉作研究最前線！～弥生・古墳時代に人々を魅了したアクセサリー～」。新潟県出身で長く玉作遺跡研究をリードしてきた寺村光晴さん（和洋女子大学名誉教授）による講演「越後・佐渡における弥生・古墳時代玉作研究の最前線を考える」を中心に行い、会場には約70名の参加者が詰めかけました。

寺村さんは、これまでの数々の遺跡の発掘調査や遺物の分析を行ってきた経験をふまえ、学問のあり方を力強く語りました。すなわち、情報過多の学会の中で、輪切りになっている（個別専門化している）現在の考古学には縦の流れを研究するものが少ないとし、各時代における玉作の縦の流れを解明したいと励んできたとご自身の研究を述懐。自然科学に対する過信・盲信に対して警鐘を鳴らし、「永仁の壺」事件（1960年に発覚した古陶器の贋作事件）を例に挙げて「多数決は学問じゃない、真実じゃない」と、冷静な判断をすることの重要性を説きました。こうした学問に対する姿勢を確認した上で、ご自身の玉作技法に関する研究の到達点をご紹介され、さらに今後解明すべき数々の課題を示されました。若々しく力強い訴えに、学問に対する真摯な姿勢を学ばせていただいた貴重な時間となりました。



講演ののち、県内で玉作関連遺跡の調査にあたる若い研究者から最新の発掘調査報告をしていただきました。小池勝典さん（(株)吉田建設）は糸魚川市南押上遺跡の古墳時代の玉作集落について、豊富な資料を示しながらご報告いただきました。続いて加藤由美子さん（長岡市教育委員会）は長岡市五千石遺跡の出土遺物をご持参いただき、緑色凝灰岩を用いた管玉の製作工程をご紹介いただきました。最後に土橋由理子さん（新潟県埋蔵文化財調査事業団：諸事情のため、当日の発表は同事業団の藤巻正信さんが担当）は新潟市西郷遺跡にみられる弥生時代の玉類の出土状況について詳細なご報告をいただきました。県内で行われたばかりの具体的な発掘調査の成果は、まさに新潟における玉作研究の最前線を理解できるものとなりました。ご講演の寺村先生はじめ、ご報告いただいたみなさんに、この場を借りてお礼申し上げます。

大会に先立ち行われた総会では、「2008年度活動報告」「2009年度事業計画」などの議事をご承認いただき、あわせて甘粕健会長、西田静夫副会長、橋本博文副会長、木村英祐事務局長などの役員が選出（再任）されました。ここにご報告させていただきます。（事務局）

## あまりにも豊かな縄文土器に圧倒された2日間！

# 「信濃の縄文遺跡をたっぷり堪能する旅」に大満足!!

去る2009年10月3日（土）・4日（日）の2日間、「信濃の縄文遺跡をたっぷり堪能する旅」を開催しました。参加者は15名と少なめでしたが、豊かな縄文遺跡の出土品の数々をじっくり見学。アットホームな雰囲気の中、とても貴重な体験をすることが出来ました。

見学地は、1日目に諏訪市博物館、井戸尻考古館と井戸尻遺跡（富士見町）、尖石考古館と尖石遺跡・与助尾根遺跡（茅野市）、2日目は黒耀石体験ミュージアムと鷹山遺跡群（長



おなじみの与助尾根遺跡

和町)、浅間縄文ミュージアム（御代田町）でした。現地では大竹憲昭さん（長野県埋蔵文化財センター）と大竹幸恵さん（長和町教育委員会）のご夫妻をはじめたくさんの方々に現地のご紹介をいただき、貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。参加者の感想をご紹介します。報告にかえます。（事務局）

### ----- 【参加者の感想】 -----

○この度のご計画、ご苦勞された事と思います。全く知らない縄文の博物館でありました。長野県は縄文文化の栄えた所と聞いていましたが、行って見て出土品の多さに驚きました。諏訪博物館、井戸尻考古館、尖石縄文考古館、浅間縄文ミュージアム、黒耀石ミュージアム、資料の豊富さに驚きました。黒耀石の鉱山を見ただけでも、知識の袋が大きくふくらみました。有り難うございました。（星名忠直）

○ハケ岳西南麓の縄文世界にしばしタイムスリップした感じで、縄文時代の遺跡とその関連施設をじっくりと観ることができ、充実したツアーでした。常々、遺跡見学の楽しみは先ず遺跡の現地に立ち、往時の自然環境や周りの景観に思いを馳せることだと考えています。ハケ岳山麓は開発も進んではいきましたが、関係者の努力で、保存、整備も良好になされているように感じられました。

今回の見学地のなかで当初、予定に入っていなかった「中ッ原遺跡」の縄文公園を訪ねることができたのは、なによりも幸運でした。この遺跡は案内の大竹さん（長野県埋蔵文化財センター）が是非、紹介したいということで、宿泊地の鷹山に向かう途中、夕暮れ迫る刻でしたが、尖石から北西約2.5kmに所在する当遺跡に寄りました。



尖石考古館の縄文土器の数々





中ツ原遺跡の4本柱



黒耀石体験ミュージアム

この縄文公園は、特に土偶「仮面の女神」(重要文化財)の出土状態を現地に再現するために平成14年に作られたものです。この遺跡は縄文中期～後期にかけて存続したこの地域の中心的なムラ(環状集落)でした。出土した土偶は竪穴住居址に囲まれた墓などが作られる中央部の坑に横たえたような状態で発見されたものでした。

また、集落のはずれの一番高い場所には8ヶ所の柱穴が検出されましたが、上部構造が不明なため、柱穴の大きさから想定された木柱(直径約50cm、高さ約4m)4本が建てられていました。三内丸山遺跡の6本柱よりはやや小規模ですが、それを彷彿とさせる遺構でした。(西田静夫)

○久しぶりの遺跡見学会ありがとうございました。信州にどんな縄文遺跡があるのか、全く不明のままの参加でした。しかし、第1日の諏訪湖周辺、八ヶ岳山麓の遺跡・遺物の豊富さには全く目を見はるものがありました。

縄文人にとって、クリやドングリの豊富な山岳地帯の生活は理想的な天地であったのでしょうか。三内丸山とは全く異なった別世界を感じました。2日目の黒耀石遺跡もまた私にとっては初めての体験でした。ヒスイや黒耀石が全国に行きわたっていることは知っていましたが、それをいかに掘り出し、

製品化し運搬したのか。それを掘り起こし、考え、実証し、後世に残していこうとする関係者の努力に圧倒されました。私は運転免許を持っていないので、自由にあちこち廻るわけにはいきません。しかし、それが出来たとしても各博物館の方々の説明を聞けるとは思えません。いろいろな方々のご説明を、長い間に仕事をし、考えて来た解釈を語ってくださることに、心底から感謝したいと思います。(内海治郎)

## 編集後記

1年ぶりの会報をお届けします。今回は昨年秋の総・大会と遺跡見学会の様をお伝えしました。11月には第12回総・大会、12月には第11回弥生・古墳講座を開催します。詳細は、同封のチラシをご覧ください。皆さん、ふるってご参加下さい。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

**文化財保存新潟県協議会事務局** (入会についてのお問い合わせも)

ホームページ : <http://www10.ocn.ne.jp/~bunsin-k/>

E-mail : [bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp](mailto:bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp)